

平成29年度学校自己評価システムシート（県立大宮東高等学校）

目指す学校像	安全・安心な環境の下、文武両道を旨とし、正義感溢れる心身ともに健康な生徒を育てる学校
--------	--

重点目標	1 生徒の能力を最大限に引き出す授業を実践し、確かな学力の定着を図る。 2 組織的・計画的なキャリア教育を通して、生徒が主体的に進路を実現できる能力を培う。 3 生徒指導の充実と部活動等の活性化を図り、安全・安心な環境の下、高い規範意識と豊かな人間性を持った生徒を育成する。 4 保護者や地域と密接に連携し、地域に信頼される開かれた学校づくりをする。
------	--

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

※ 学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	12名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					学 校 評 価 (2 月 1 日 現 在)		学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標					年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	<input type="checkbox"/> 現状 ・授業にまじめに取り組む生徒が多く、着実に学力を向上させている者もいる一方で、基礎学力が十分でない生徒もいる。 <input type="checkbox"/> 課題 ・基礎基本の学力定着を重視した「わかる」「できる」授業をさらに展開するとともに、取組の進んでいる生徒には一層のレベルアップを図る必要がある。	基礎基本を定着させる学習指導と生徒の主体性を育む学力向上の取組	①生徒の学習意欲を高め、基礎学力の定着を期し、わかる授業を展開する。 ②年次研修、公開授業、教科会等を活用し、授業改善を進める。 ③始業前の「朝学習」を含め、生徒を主体的に学習に取り組みせるとともに、授業以外の学習時間を確保するための環境整備を行う。	①学習意欲の向上、授業満足度に係る授業アンケートの結果。 ②授業改善につながる情報交換や検討の各教科や職員研修会、授業見学等での実施状況。 ①②教員の授業満足度。 ③主体的に学習に取り組む生徒の増加状況と学習環境の整備状況。	当初の目標をほぼ達成できた。 ①生徒の授業満足度84.0%(+7.1)、保護者90.5%(+2.7)。授業が分かる78.5%(+3.3)、わからない理由として説明が分かりやすすくないからと回答した生徒26.8%(+11.1)。 ②6.11月に授業研究週間を設定し、授業見学教科会が広く行われ、各教科で授業改善について検討がなされた。 ③主体的に学習に取り組んでいる生徒の割合72.0%(+0.5)、学習環境整備として社会科室を開放、補習授業を実施。	A	授業改善の結果、「授業が満足」、「授業が分かる」生徒が増えてきている。引き続き日常の授業を大切にする姿勢を育てていく。また、学習時間の極端に少ない生徒に対する指導については、学習時間確保のための方策や授業の工夫について、情報交換し共有を進めていく。教員の授業満足度は昨年比で横ばいであるが、教科会を通じた授業改善を継続し、向上させていく。	学校関係者からの意見・要望・評価等 生徒にとって分かる授業が行えていることが感じられる。これからは教科会を中心に、継続して授業の在り方を確認、研究していくことを期待する。
2	<input type="checkbox"/> 現状 ・多岐に渡る進路希望に対し、3年間を見通した進路指導事業を安定的に実施できている。 ・生徒、保護者とも進路指導満足度は比較的高い水準である。 <input type="checkbox"/> 課題 ・生徒一人一人の可能性や適性に応じた、より高い進路実現を目指す必要がある。 ・多様な進路希望に応えるため、更なる指導力向上を図る必要がある。	生徒の可能性と主体性を引き出す進路指導の充実	①組織的かつ継続的に3年間を見通し発達段階に即した進路指導を行うとともに、日常的に生徒・保護者への十分な情報提供を行って進路意識を啓発し主体的に進路実現できる生徒を育てる。 ②全職員の指導力向上を図り、多様な進路希望を持つ生徒の実態と大学入試等の各種進路状況を正確に把握し生徒一人一人の可能性や適性を見極めた進路指導を学校として行うことで自己の可能性と真剣に向き合いより高い目標にチャレンジできる生徒を育てる。	①生徒の主体性を育む各学年進路行事、分野別指導等の実践状況。進路便り等の進路啓発資料の発行状況。 ②生徒の進路希望状況と実現状況、大学入試一般受験や公務員試験受験等への取組状況。面接・小論文等の個別指導実施状況。職員進路研修の実施状況。	当初の目標をほぼ達成できた。 ①進路指導部と各学年が連携し、進路見学会、模擬授業、進路フェスタ等在籍3年間を見通した体系的な進路行事が今年も計画通り実施された。また、進路啓蒙に関する通信が今年も3学年合計31通(±0)発行され、生徒、保護者へ有益な情報が提供された。 ②1月までに9割の3年生が進路決定した。大学・短大55.5%(+1.4)専門学校29.9%(+1.4)就職(民公)14.6%(+2.8)現役大学合格件数154件と公務員試験合格件数28件(過去最高の数値。教員研修は2回実施、専門学校対指導5月)と大学入試状況(11月)。進路指導満足度(生徒73.8%(+3.7)、保護者83.8%(+0.2))。	A	3年間を見通した進路指導行事については、新1年生から大学入試等の変更が始まるのでそれを意識して改革していく必要がある。これについては教員の共通理解と指導力向上のための研修等も実施していきたい。生徒の可能性や主体性を引き出す進路指導については、今年も国公立大学の推薦や一般入試を受験した生徒も出ていし、公務員試験の受験者数、合格者数ともに増えている。今後も高い目標を目指すための早期からの指導を行ってきたい。	生徒自身がやりたいことができる場に進める指導が重要である。校外学習に大学見学を組み入れていることは、キャリア教育としても評価できる。
3	<input type="checkbox"/> 現状 ・基本的生活習慣等は概ね確立しているが、生徒の登下校時における自転車危険運転等の苦情も稀にある。 ・9割の生徒が部活動に所属し、県大会や関東大会等で活躍している。文化部活性化と応援体制強化は継続課題である。 ・生徒の行事への関心は高い。 <input type="checkbox"/> 課題 ・安全・安心に学校生活を送れるよう更なる規範意識の育成。 ・部員の主体性を育み自己実現としての競技実績を向上させる。 ・文化部活動の活性化を図る。	安全・安心な学校生活を送る為の規範意識を高める生徒指導の充実 豊かな人間性を育て、目標に向かって主体的に努力する部活動と学校行事の活性化	①生徒指導部・学年・家庭の連携による生活指導と交通安全指導を徹底する。 ②外部機関との積極的な連携を行い、部活動顧問の指導力の向上などにより、全国大会や関東大会等上位大会への出場実績を維持・向上させるとともに、文化部活性化を図り、応援体制を強化する。体育祭、文化祭等の行事の機会を活用し、生徒自治や主体性を育てる。	①交通安全指導の充実。指導件数、交通事故数。指導内容及び回数。 ②部活動実績。部活動指導力向上策の状況。長期的視点に立った、応援強化に係る文化部員数の確保の取組。生徒、保護者の部活動満足度。生徒の学校行事満足度。	当初の目標をやや下回った。 ①1月1回の交通安全指導、PTA交通安全指導(年3回)、生徒主体全校規模の自転車マナーアップ講習会を計画通りに行った。また、全校集会ごとに交通安全啓蒙に係る講話を実施した。登下校時の交通事故数は25件(+12)であった。	B	分室内でコミュニケーションをとり、組織的に指導を行うことができたが結果的には交通事故報告が増加してしまった。更に自転車乗車マナー等に関して外部からの苦情もまだあり、課題は多い。全校集会や自転車マナーアップ講習会等で粘り強く指導を継続していきたい。	礼儀正しく、規範意識は高い。あらゆる道徳的行為の基盤である挨拶ができる指導を伝統として守って行って欲しい。自転車登校における安全指導が更に必要と感じる。教室の整頓不足や階段のごみが前回よりも気になった。勉強と部活動に一生懸命な生徒の姿勢こそが尊い。頑張る生徒をしっかりと支えて欲しい。部活動活性化には、顧問へのフォローも必要である。
4	<input type="checkbox"/> 現状 ・地元自治会への回覧やホームページ、地域交流により本校への理解が浸透してきている。 <input type="checkbox"/> 課題 ・生徒の活躍ぶりがよりわかるような広報活動を続け、志願者数を増やす。 ・生徒の対外的な活動を充実させ、保護者と連携して学校行事の充実を図り、開かれた学校づくりを実施する。	大宮東の魅力のアピールと地域に信頼される開かれた学校づくりの推進	①学校説明会や里帰り訪問でがんばる大東生を発信する。 ②学校説明会等で個別相談会を実施し、本校への理解を浸透させる。 ③地元自治会への回覧やホームページ、メール配信などを通じたタイムリーかつ的確な情報発信を行う。 ④より多くの保護者や地域の方が学校行事に参加できるよう広報する。 ⑤県委嘱事業の他、部活動単位の活動も含め、生徒の地域交流を推進する。	①学校説明会等の参加者及び志願者数と参加者の満足度。 ②本校への理解が深まり、本校に良い印象を持ったか。 ③ホームページ更新回数、アクセス数等内容の充実度とメール配信数。 ④保護者や地域の方の学校行事への参加数。 ⑤交流、体験、ボランティア活動等生徒の地域交流の推進状況。	当初の目標をやや下回った。 ①学校説明会参加者数2266名(前年比-236)。12/15現在志願者数:普通科273名(-16)、体育科92名(-29)。参加者満足度アンケート良かったが90.9%(対談、自校体験、校歌など好評)。 ②大宮東で学びたい、学びたいという声が寄せられた。 ③日々の活動や部活動の様子を丁寧な配信し、アクセス数は485,759回(10.2%増)。メール配信数は62回(+0)であった。 ④丁寧な案内をし、文化祭、体育祭とも昨年を上回った。 ⑤小学交流(11月近隣3校111名)、近隣部活動等のボランティア、ボランティア部や軽音楽部の近隣機関への参加など。	B	各方策についてはほぼ予定通り行い、学校説明会広報で公式ツイッターを県公立各校と先駆けて立ち上げるなど新たな試みも行った。来場者からは一定の評価を得たが、学校説明会参加者数及び志願者数については昨年を下回る結果となり課題を残した。取組方法の工夫、改善を検討し、本校の特色、魅力の更なる情報発信に努めることで向上を図ってきたい。	ホームページの生徒活動報告には、成果をコメントすることでアピールの効果が向上する。生徒によるボランティア活動や出前授業も必要と考える。地域の想いは強い。体育祭集団演技は楽しみである。広報の充実を望む。